

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400881), 法人名 (有限会社 ユースフル), 事業所名 (グループホーム星の家 (2階 織姫)), 所在地 (北海道札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号), 自己評価作成日 (平成28年6月24日), 評価結果市町村受理日 (平成28年8月15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Empty box for business-specific points.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170400881-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年7月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty box for external evaluation points.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、スタッフ間で共有しており、地域住民の理解と協力を得ながら、その人らしい暮らしにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、新年会、清掃活動、花壇作り、盆踊り等に参加している。回覧板も入居者様と一緒に届けに行き交流の場を広げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練等、ホームの行事に参加していただき、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居者様、ご家族、町内会役員の方、地域包括の方を招き、リビングにて開催。状況報告をし、研修や意見交換を行う等、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者・ケアマネが、札幌市、手稲区、地域包括等と連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間(19:00~8:00)は防犯上玄関の施錠をしているが、日中は開放している。転落防止のためのベッド柵等やむを得ない場合には、ご家族からの同意を書面にいただいております。定期的な振り返りを行っている。新人職員には、その都度説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のミーティングで、虐待防止について学習する機会を設けている。言葉の虐待も行わないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会による支援事業を活用されている入居者様もおり、毎月、担当職員と楽し気にコミュニケーションを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、不安や疑問点がないように、時間をかけて説明を行い、ご理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時にお話し易い雰囲気づくりに努めている他、ご意見箱の設置をしたり、第三者機関への相談窓口の掲示をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、毎月のミーティング、日常会話の中で、意見や提案を聞く機会を設けているが、個人面談という形では行っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数や実力を考慮して給与を支給しており、介護職員処遇改善給付金も年2回支給している。食事補助も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の経験や力量に応じて参加の機会を設けているが、内部では、ミーティングの時間を活用し、勉強の機会を設けている。又、介護新聞や介護雑誌の年間購読により、自発的に学習する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や、区が開催する管理者会議には、ほぼ毎回出席し、必要に応じて現場にフィードバックしている。手稲区で毎年開催されている「ふれあいフェスティバル」にも参加し、同業者との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定する前から、ご自宅や病院、施設等に訪問し、ご本人の困っていることや不安、要望にしっかり耳を傾け、少しでも安心されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が今一番困っている事、これからどうしたいと思っているのかを、話しやすい環境でゆっくり傾聴し、要望に応じていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時からの、ご本人やご家族の不安や訴えを再確認し、サービス利用開始の段階で必要としている支援の優先順位を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が常に主体であることを忘れず、不安や寂しさをありのまま受け止め、嬉しい時は一緒に喜び、お互いを思いやり、穏やかに生活できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪しやすい環境づくりに心がけ、来訪時には、入居者様の心身面の様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にはなかなか行けないが、馴染みの人との関係が途切れないように努めており、ご家族だけでなく、友人、知人、馴染みのヘルパーさん等の面会もある。電話の取次ぎも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの個性を大切に、性格や価値観の相違からトラブルが発生しないように努め、職員が介入しながら入居者様同士が支えあえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、病院や施設等に出向き、退去後の様子を確認している。ご家族の病気や生活上の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できること、できないことを把握し、言動や表情から、お一人おひとりの思いや、望んでいる生活ができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をはじめ、ご本人やご家族から、好きなことや、今までの暮らし方などを聞き取り、本人らしくホームで生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定データ(体温・血圧・脈拍)や、その日の言動から、できること、できないことを見極め、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで、職員が得た情報等を自由に意見交換し、ご本人・ご家族の意向も確認しながら、より良いケアができるよう介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、その日に実践したケア内容、ご本人の様子(発言)、その他の気づき等を記録し、職員間で共有している。見直しが必要と思われる際は、その都度話し合い次の実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況を把握し、必要に応じて、病院への送迎や同行を行ったり、ご家族に代わって入院時の書類等への記入を行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへの買い物、公園への散歩、回覧板の届け等を通じ、生活を楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医の往診にて、体調管理を行っている。変化がある時には相談し、指示を仰いだり、臨時的往診をしていただく等、適切な医療を受けることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、実施記録や温度板等の記録、口頭により、入居者様お一人おひとりの体調を報告しており、適切な医療や看護を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医から情報提供書を送っていただき、ホームからは介護添書を早めに提出し、情報交換を行っている。又、退院時には、リハビリや食事指導も受け、ホームに戻ってから実行している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合について、ご家族への説明は行っているが、現段階での対象者はいない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応マニュアルがあり、夜間帯も1階・2階の夜勤者が協力のもと、スムーズに対応できるように申し合わせている。応急手当・初期対応訓練は個別での講習参加もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤者一人の際の出火を想定して、消防や町内の方の協力も得て、年4回避難訓練を実施している。災害時の避難場所の地図も掲示している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が生きてこられた長い人生を尊重し、人格を損ねないような言葉、馴染みの関係になっても乱暴にならない言葉かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が望んでいることや思いを表現しやすいように、職員は言葉かけをする際に、自分の表情にも気を付けながら対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そ日の体調や気分に合わせて、入居者様の希望も受け入れ、ご本人のペースを大切にしながら、役割の機会を作ったり、楽しみが持てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の汚れに気を配り、整髪や髭剃りを行い、1日を気持ちよく過ごしていただけるように支援している。訪問理美容室来訪時は、パーマや毛染めも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき・カット・盛り付け等や、食器拭き等の後片付けを、入居者様の力を活かしながら一緒に行い、食事を楽しめるよう支援している。台所から居間に漂う食事前の匂いも楽しみの一つである。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作成し、新鮮な食材を多く取り入れた食事を提供している。水分摂取が捗るような嗜好品も取り入れ1日に必要な水分や栄養が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時は介助を必要とする入居者様が殆どで、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に歯科医の往診もあり、義歯調整や口腔内のチェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄間隔を把握し、尿意のある無しに関わらず失敗する前にトイレ誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄できるよう自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様によっては、便秘が原因と思われる気分の低下や不穏行動がみられるため、水分摂取、ヨーグルト・果物等飲食物の工夫、個別の歩行運動、階段昇降運動も取り入れ、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに添えていないことも多いが、週2回の入浴でゆっくりくつろいでいただき、楽しい時間となるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況を見守り、必要に応じて、午前・午後の休息も取り入れている。照明や室温調整・換気等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の確認は個人ファイル・連絡ノート・口頭での申し送りで行っている。変更時は、看護師の協力もあり、解り易いように記入・セットされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体面・精神面の状態に相違はあるが、一人ひとりの持つ力を引き出しながら、他入居者様もまじえ、楽しい雰囲気づくりや気分転換等の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事予定に基づき、季節に合わせた外出行事を企画している他、ホーム周りの散歩、公園や玄関前での日光浴や外気浴も行っており、気分転換も兼ねた支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や、ご家族の了承を得て、ホームでお預かりしている。手元に現金がないことへの不安の訴えもあるが、その都度の説明により、安心していただけるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には、手紙の代筆や投函の支援も行っている。電話は、状況によりご本人の意向に添うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、玄関やEVホール、リビングに、季節ごとの置物を置いたり、飾りつけをしている。室温や湿度、照明等に配慮し、居心地の良い、清潔な空間づくり心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	良い関係づくりに配慮した席替えを行い、共用空間での居場所の工夫をしている。一人ひとりが孤立しないように、職員が間に入るようにしたり、時には一人になる時間の確保にも努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居室掃除を行い、清潔で危険のないように配慮しながら、馴染みのある物を傍に置き、安心して過ごしていただけるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前や居室前には、表示プレートや写真を掲示している。又、廊下や階段、トイレには手すりを設置しており、ご本人のできることを奪わないように配慮しながら転倒防止に努めている。		